

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 031	提案機関名 神奈川県 畜産課
要望問題名 藻場の保全と再生への家畜ふん堆肥の活用	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 瀬戸内海において、窒素やリンの「栄養塩」が減少し、漁業への影響を引き起こしており、その対策として、兵庫県淡路市のある漁協では、鶏糞を発酵させた肥料を散布(※)することにより、ワカメが約1.9倍成長したという結果を得て、藻場の再生につなげたいとの新聞報道があった。 本県の水産技術センターにおいても、藻場の保全と再生に取り組んでいるところがあるので(農林水産関係試験研究推進構想 水産業の部)、その対策のひとつとして、畜産技術センターと水産技術センターが連携し、豚糞堆肥や鶏糞堆肥の活用により、藻場の保全や再生への効果について検討できないか。 なお、水産技術センターによると、本県の磯焼けは、食害による影響が大きく、栄養塩の影響は何とも言いえないとのことである。また、堆肥の散布については、栄養塩が少しずつ溶解するよう、ペレット化やブロック化するなど、何らかの処置が必要と考えられる。 ※ 新聞報道では、金属製の籠に鶏糞を発酵させた農耕用肥料を搭載したと記載されている。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター 水産技術センター	担当部所	企画指導部 企画研究部
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	瀬戸内海において、鶏ふん堆肥を利用した藻場の再生の取り組みが地元紙で報じられていますが、公的機関等からの効果についての情報はありません。 畜産技術センターは、本件に関しまして、本取り組み以降の広がりや科学的な根拠になる研究報告等の情報収集に努めますので、実施不可とさせていただきます。 海藻の育成を目的とした海域への施肥は、以前から行われていますが、その効果ははっきりしておらず、水産庁の作成した「磯焼け対策における施肥に関する技術資料(平成27年3月)」に、「磯焼け海域における施肥の効果については未解明な事項が多く、適切な施肥を計画することは容易ではない」と記されています。特に有機質については、無機化されないと海藻が摂取できず、また海洋汚染を引き起こす恐れもあることから、その使用には注意が必要です。このように海域への施肥は困難ですが、水産技術センターでは、ご相談いただければ意見交換等は対応できます。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			